

プレスリリース (2014年6月2日)  
「プロサバンナにノー！ 全国キャンペーン」  
【日本語訳】

2013年5月、20以上の市民社会組織、社会運動、小農組織、環境および宗教組織、並びにナカラ開発回廊の家族・コミュニティは、モザンビークおよびブラジルの大統領と日本の首相宛の「プロサバンナ事業の緊急停止と再考を求める公開書簡」に署名し、提出した。

プロサバンナは、上記三政府が参加する「三角」協力事業である。また、1,450万ヘクタールを超える対象地域において、ブラジルと日本のアグリビジネスが土地をモザンビーク政府から手に入れ、北部のナカラ開発回廊と呼ばれる地域で、大豆、トウモロコシ、ひまわり、綿花のモノカルチャー（単一作物）栽培を行うものである。ナンプーラ、ニアサ、ザンベジ州の19郡がこの事業の実施地とされている。

「公開書簡」は、この巨大パートナーシップ事業の主体である三カ国の首脳に宛てられており、その主要な目的は、プロサバンナを直ちに停止させ、深く広範で、透明かつ民主的な公開の議論を行うことにあった。この事業は、数百万の「現在の」市民だけでなく「将来の」世代にも、社会・経済・環境の面で大きな悪影響を直接・間接的に及ぼす可能性があり、したがってそのプロセスには広く国民の参加と協議が不可欠である。この事業に関する情報へのアクセスの権利は、何にも代えがたい国民の基本的権利でもあると指摘した。

同「書簡」はまた次のことを非難している。提供された情報は不十分で、入手できる情報は限られているものの、そこにみられる数えきれないほどの食い違いと矛盾は、この事業の基本構想が取り返しのつかない欠陥をもって設計されたことを裏付け、立証している。また、公衆の参加と協議の手続きとされているものは深刻な不正にまみれている。さらに農民は、これにより土地収奪の深刻な脅威にさらされ、農民とコミュニティが現在使っている土地からの強制立ち退きも計画されている。

このような「プロサバンナ事業の緊急停止と再考を求める公開書簡」を発表・提出してから一年が経つが、未だ回答はない。モザンビーク社会の多様な層からの批判と要請にもかかわらず、プロサバンナは継続されており、しかも当初の構想の非を認めることもないまま、それにこだわり続ける形で推し進められ

ている。モザンビーク政府、とりわけ農業省は、この事業に対する多数のモザンビーク国民男女の正当な要請と要求を無視し続けてきた。

これまで繰り返し目の当たりにしてきたように、プロサバナでは、悪質な秘密主義が蔓延し、同事業が作成する文書には恒常的な情報の削除や改ざん・操作、意図的な不一致が明白であり、今もこうしたことが続いている。また小農組織のリーダー、社会運動や市民社会組織の代表者、活動家に対し、プロサバナの企画者や実務者による脅迫や強要が多数実行に移されている。

私たちは、プロサバナを停止させ、新植民地主義的な多国籍企業による小農の土地への侵入を食い止めるため、本日、2014年6月2日に、「全国キャンペーン プロサバナにノー (**CAMPANHA NACIONAL NÃO AO PROSAVANA**)」の開始を公表する。このイニシアティブは、小農らが直面する土地に対する侵略、収奪、商品化、私有化の危険に立ち向かい、私たちの天然資源を守るための闘いを強化するためのものであり、市民社会組織と小農運動による共働を目指すものである。

「全国キャンペーン プロサバナにノー」を開始することで、この闘いが国民全体のアジェンダとなることを目指す。このキャンペーンは、プロサバナ推進のプロセスにおいて、当初計画されたもの（現在はプロサバナ外で行われているもの）、そして実際に実施されることとなったものを含む、すべての活動および計画（例えば、マスタープラン[PD]や開発モデル策定プロジェクト[PEM]）を停止させ、無効化することを主要目的とする。以上によって、私たちは、「公開書簡」が現在でも有効であることを再確認するとともに、同「書簡」で述べられているにもかかわらず未だに回答されることがない小農の要求と懸念の数々を、改めて表明したい。

このキャンペーンは次のことを計画する。

- プロサバナに反対する市民社会組織、リーダー、活動家らに対する、すべての形態の巧妙な操作、「一本釣り」や脅迫、犯罪的行為の企みを糾弾し、拒絶する。
- プロサバナ（とその当初想定事業）によって引き起こされる土地の侵略と収奪、環境汚染に対し、小農およびコミュニティの広範な動員、組織化、民衆的抵抗を推し進める。
- プロサバナに関与する諸国家・国際諸機関に、その行為に関して責任を取

らせる。そのため、国内および国際的な司法の場で、公衆の利益のための事業にもかかわらず情報が秘匿されていることに関し、法的な手段に訴える。また、全国人権委員会やオンブズマンなどの司法メカニズム外の諸機関に対し、現状への抗議と告発を提起する。

- モザンビーク政府に対し、すべての人が参加でき、広範で民主的な公式の対話の仕組みを設置することを求める。この仕組みは、モザンビーク社会のすべての層（小農男女、農村コミュニティ、宗教組織、市民社会組織）が参加できるものでなくてはならず、またこの国の発展における主権のため、真のニーズ、願望、そして行動計画とアジェンダにおける優先順位を議論することを保証するものでなければならない。
- 最後に重ねて、すべての小農運動、環境運動、社会運動、市民社会組織、農村コミュニティ、そして市民のすべてに対し、土地・水・資源および共通の文化的・歴史的遺産の管理に関する私たち自身の権利と利益を守る闘いへと立ち上がり、広範な動員と組織化を行い、全国的な民衆運動を作り上げるための本キャンペーンに招待する。プロサバナの対象となるすべての人びと、あらゆる社会・環境的な不正義に立ち向かう人びとに、強力かつ断固とした抵抗を呼びかける。

2014年6月2日 マプト市

União Nacional de Camponeses-UNAC（モザンビーク全国農民連合）

Liga Moçambicana dos Direitos Humanos-LDHM（モザンビーク人権リーグ）

Justiça Ambiental-JA（環境正義）

Accção Académica para o Desenvolvimento das Comunidades Rurais-ADECRU

（農村開発のためのアカデミック・アクション）

Fórum Mulher（女性フォーラム）

Actionaid Moçambique（アクションエイド・モザンビーク）

Associação de Apoio e Assistência Jurídica as Comunidades-AAAJC

（コミュニティへの法的支援協会）

Livaningo（リバニンゴ ＊環境団体）

Kulima（クリマ ＊農村開発支援団体）

訳者：大林稔（龍谷大学名誉教授 / 元（特定非営利活動法人）TICAD 市民社会フォーラム代表）

\*本日本語訳は、英語訳を基にしつつ、原文（ポルトガル語）と異なる部分については、原文を参照して訳し、部分的にキャンペーン本部に確認して完訳とした。

原文：<http://www.unac.org.mz/index.php/7-blog/82-campanha-nacional-nao-ao-prosavana>

英語訳：<http://farmlandgrab.org/post/view/23577-no-to-prosavana-launch-of-national-campaign>